

# 平成30年度 自己評価表

鳥取城北高等学校

教育目標	《建学の精神》 質実剛毅の校訓を基底に、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、明朗闊達にして進取の気象に富んだ人材の育成をめざす
	○ホスピタリティを重視し、生徒、保護者、教師がともに幸せになれる教育 ○グローバルスタンダードな視点を持ち、社会に通用する力と豊かな心を育む教育

今年度の重点目標	『生徒指導、学習指導を学校運営の両輪として、「鳥取城北生5つの誓い」を実践する。』 ・多様な進路希望に対応できる教育環境の整備を図り、生徒が伸び得る場をつくる。 ・自らの目標の実現に向けて、主体的に行動できる生徒を育てる。 ・自ら考え責任ある行動ができる生徒を育てる。
----------	---

年度当初			評価結果				
評価項目	評価の具体項目	現状 (H29年度実績)	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善点等
学力強化	生徒の基礎学力の向上と、中間層の学力の向上を図る。	・家庭学習時間25分 ・GTZ、Dゾーン77%、Bゾーン7%	・スタディサプリ到達度テスト正答率60%達成。 ・年度当初に比べ、家庭学習時間が増加している。	・スタディサプリを活用し、単元テストでスモールステップのクリアを目指す。 ・教科担任と学級担任との連携を密にする。 ・放課後や長期休暇中の補習、講座を開設する。 ・定期考査期間中にclassiを活用して家庭学習の時間を把握し、学期ごとに平均時間を出す。	・平均正答率の推移45%→44%→42% 年平均44% ・2年生普通コースとスポーツ科学コースは正答率が各回ごとに上がっている。 ・学習時間の推移1年69分→77分 2年100分→134分、3年91分→88分 ・どの学年も1学期期末が一番学習時間が多い。秋冬にどう学習に取り組みせるかが課題。	B	・学習環境の整え（教室の整理整頓、美化） ・授業内容の充実、向上を図る。 ・担任、教科担任共同でクラスの課題と目標を明確にし、常に情報交換を行う。 ・「学び合い活動」など学習意識を高める活動を定期的に仕組む。 ・学習時間調査の調査方法を検討する必要がある。（classiの入力が不十分。）
進学指導	生徒の進学意識と学力を高め、進路希望を実現させる。	・3年生：現役国公立大学＋難関私立大学合格者延べ数29名 ・2年生：1月進研模試国数英総合SS50以上54名 ・1年生：1月進研模試国数英総合SS50以上53名	・3年生：現役国公立大学＋難関私立大学合格者延べ数60 ・2年生：1月進研模試国数英総合SS50以上55名。 ・1年生：1月進研模試国数英総合SS50以上50名。	・進路検討会および成果の出た取り組みの共有会を実施する。 ・大学生や大学教員との交流、キャリアデザイン講演会等を行い、進学意識を高める。 ・生徒面談を積極的に行う。 ・1年生初期指導、栄光塾合宿、勉強合宿を実施する。 ・スタディサプリを有効的に活用する。	3年生：現役国公立大学＋難関私立大学合格者延べ数60名の目標に対し前日日程終了時点で48名 2年生：1月進研模試国数英総合SS50以上55名の目標に対し38名 1年生：1月進研模試国数英総合SS50以上50名の目標に対し42名	B	・二次試験対策を強化し、難関国公立大の合格者数の増加を目指す。 ・早期からの意識付けにより、難関私大の合格者の増加を目指す。 ・AO推薦入試に向けての積極的な検定の資格取得や各種活動を促す。
就職指導	全学年でキャリア教育を推進し、早期の職業観、就業意識を構築し、第1志望内定率を上げる。	・就職内定率100% ・第1志望内定率86%	・内定率100%を早期に実現（1月中旬まで） ・第1志望内定率80%以上。	・ハローワーク等外部の機関との連携を強化し就職ガイダンス・インターンシップ・企業説明会・企業見学・様々な職種の話・体験学習などの実施、参加。 ・面接練習、合同面接会の実施。 ・就職模試等。	内定率100%達成（1月中旬） 第1志望内定率 79.3%	A	第1志望内定率を高めるため、より組織的な面接指導の推進、個別面談の充実、外部機関との連携による職業意識の向上などを図る。
生徒指導	頭髪服装規定を理解させ、主体的に身だしなみを整えることを通して規律ある生活習慣を身につけさせる。	・頭髪服装検査において、一部の生徒が違反を繰り返すという傾向が見られる。 ・学期はじめの検査での不合格率が高い。 ・29年度5月の初回合格率はおよそ8割弱であった。	・初回検査合格者率（4月検査を除く）が80%以上である。	・違反者への段階的指導を徹底しておこなう。 ・身だしなみチェックを活用しながら、日々指導の積み重ねを大切にする。 ・必要に応じて連絡をおこなうなど、家庭との連携を密にする。	アンケートにおいて、身だしなみを整えることができたという生徒が95%超え、生徒の意識が向上している。頭髪服装検査においても、初回合格率が85%を超えており落ち着いた様子である。違反や検査不合格を繰り返す生徒が決まっているので、担任と連携して指導をおこなう必要がある。	A	全体的に頭髪服装の様子は安定してきており、問題行動も減少傾向にあり落ち着いた学校生活を送ることができている。生徒指導上の問題を抱える生徒がある程度減ってきているため、個別に家庭とも連絡をとって、継続的に指導をおこなう必要がある。また校外での服装等について啓発していく。
生徒会	生徒主体の生徒会活動を活発にさせる。	・昨年度から実施しているベルマーク集めや毎週の執行部会の実施など執行部の生徒は意欲的に活動している。 ・各種委員会に所属する学級役員の活動ができていない。	・学校行事や生徒会活動に、生徒が主体的に関わっている。	・生徒会執行部会を毎週実施する。 ・各種委員会を定期的に開き、学級役員の役割を明確にする。 ・校内放送を活用し、生徒会活動のPRや啓発を継続的に行う。	最終評価では、各項目で68%以上となり生徒会活動への参加意識が高まったと実感した生徒が多かった。また、執行部はボトムアッププロジェクトと協力し、お昼の校内放送、「Nice DA J」の掲示など、楽しい企画を充実させることができた。	B	次年度に向け生徒自身が率先して参加できる企画やイベント等をさらに生み出し、より良い生徒会活動にする。
人権教育	鳥取県が目指す人権教育を基底にし、LHRの充実を図り生徒の人権意識を高める。	・生徒それぞれの人権教育に関する学習内容や、人権尊重の考え方の差が大きい。	・生徒の実態に即した人権学習が展開され、生徒の人権意識が高まっている。	・人権教育LHRを充実させ、生徒の人権に対する意識を高める。 ・クラスの実態に即した目標設定をする。 ・各種研修会や交流会などの参加を促す。	後期の生徒アンケートでは、人権意識を深めることができた生徒が1年91.9%、2年92.6%、3年92.2%であり、人権教育LHRでの活動が充実していたことを示している。	A	今後も人権教育LHRだけでなく、授業等の学校生活の中で人権意識の向上を図る取り組みをさらに進めていきたい。
教育相談	生徒が不安を感じることなく学校生活を送ることができる。	・年度当初より教育相談室が関わる生徒、保護者があり、今後も教育相談室が関わる生徒、保護者が増える可能性がある。	・生徒の不安を取り除くために、教育相談室がクラス担任、管理職、学年主任と連携をとり、迅速かつ丁寧に対応していく。	・生徒、保護者の困りごとに対し、クラス担任をはじめ、管理職、学年主任と共に教育相談室が十分に対応していく。 ・生徒、保護者、担任の困りごとに対し、教育相談室からの声掛け心がけるとともに、S Cとの速やかな連携を図る。	後期の教職員向けアンケートの結果、生徒・保護者が利用しやすいが76%、教職員が利用しやすい92%であった。ただし生徒・保護者の利用に対して、わからないと回答した教職員が24%であった。前期のアンケート結果と比べ、生徒・保護者が利用しやすい、教職員が利用しやすいと回答した教職員が増加した。	A	わからないと回答した教職員が少なくないので、教育相談室の活動等周知し、さらに利用しやすい環境を整えていく必要がある。